

成功する

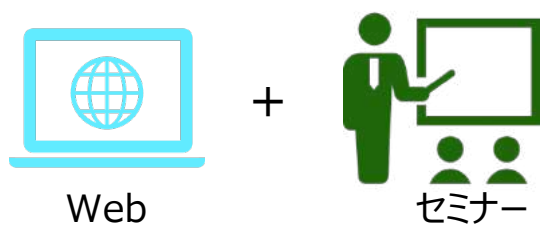
オンラインイベント

虎の巻



| | |
|----------------------------------|----|
| はじめに（ウェビナー：オンラインイベントの定義と種類） | 3 |
| ウェビナーのセキュリティ基礎知識 | 4 |
| ウェビナー調査レポート① | 5 |
| ウェビナー調査レポート② | 6 |
| ウェビナー調査レポート③ | 7 |
| その他ウェビナーに関するサービスや機能について（2021年度版） | 8 |
| オンラインイベントの進め方【企画】 | 9 |
| オンラインイベントの進め方【運用／役割表】 | 10 |
| オンラインイベントの進め方【運用／WBS】 | 11 |
| オンラインイベントの進め方【集客・案内】 | 12 |
| オンラインイベントの進め方【コンテンツ作成】 | 13 |
| オンラインイベントの進め方【リハーサルの注意点】 | 14 |
| オンラインイベントの進め方【接続時の注意点】 | 15 |
| オンラインイベントの進め方【本番時の注意点】 | 16 |
| オンラインイベントの進め方【終了後の注意点】 | 17 |
| オンラインイベントの進め方【フォロー時の注意点】 | 18 |
| オンラインイベントで想定されるトラブル集 | 19 |
| 人気ウェビナープラットフォーム 機能比較 | 20 |
| オンラインイベントで活用できるデバイス集 | 21 |

① ウェビナー（Webinar）とは



インターネットを利用して行う「セミナー」や「研修」、「講義」や「講演会」のこと

- ・Webセミナー
- ・オンラインセミナー
- ・インターネットセミナー
- ・eラーニング



同じ意味（内容）を指します

② ウェビナーの種類

ライブ配信

- ・生配信（臨場感あり）
- ・質疑応答 Q&A
- ・テキストチャット

個別配信

- ・生配信（臨場感あり）
- ・マンツーマン
 - ・授業（学習）
 - ・顧客フォロー（Web会議とも言える）
- ・質疑応答 Q&A
- ・テキストチャット

録画配信

- ・事前に作成した動画コンテンツを準備する（テロップ・字幕・資料挿入）
- ・準備した動画を 生配信 or オンデマンド
- ・コンテンツ長期利用・再利用
- ・視聴者のタイミングで見れる
- ・質疑応答 → 後日回答

同期型

非同期型

有料で使える

無料で使える

有料で使える

無料で使える

基本的なセキュリティー設定

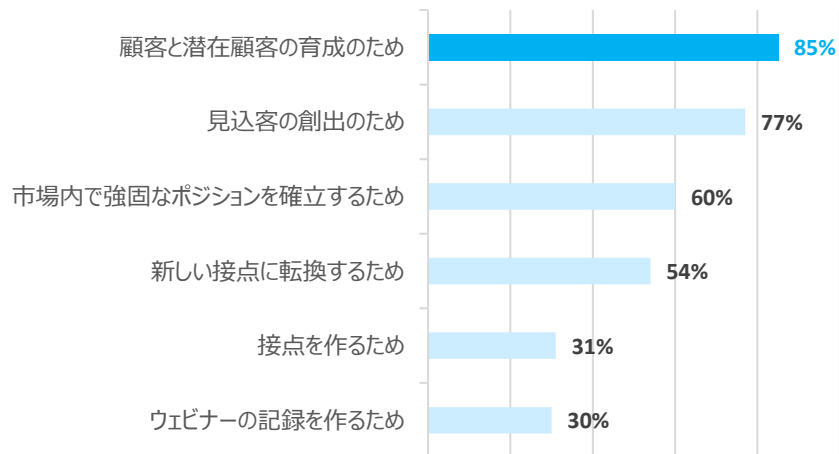
| セキュリティー項目 | 設定内容 | 目的 |
|---------------------|--|--|
| 参加申込の事前登録 | 参加希望者に、氏名・メールアドレス・会社名など、主催側が設定する情報を入力させる | 情報入力いただいた参加希望者だけに、主催側からウェビナーアクセスURLやパスワードを発行する事で、Zoom爆弾の例のように、悪意を持った第三者の侵入や攻撃、ウェビナー運用の妨害やいたずらを防ぐため |
| ウェビナーURL接続時のパスワード設定 | ウェビナーを視聴する際に必要となるパスワードを設定 | 上記と同じでZoom爆弾の例のように、悪意を持った第三者の侵入や攻撃、ウェビナー運用の妨害やいたずらを防ぐため |
| 参加者名非表示 | 参加者の名前を、参加者全体に表示しない設定 | 参加者のプライバシー保護のため ※主催側はQ&Aやトラブル対応のため、参加者の名前表示は見えるように設定する |
| 参加者カメラ・マイクミュート | 参加者のカメラとマイクを強制ミュートする設定 | 参加者のプライバシー保護の為 |
| 開始後、ウェビナーロック | 開始後、誰も参加できないようウェビナーをロック（鍵）する設定 | 部外者の侵入を防ぐため ※参加者が全員揃ってからロックする事 |

通信時のセキュリティー

| サービス名 | 暗号化通信プロトコル | 解説 |
|-------------------------|------------|--|
| Zoom ビデオウェビナー | TLS 1.2 | TLS (Transport Layer Security) は、インターネット上でデータを暗号化して送受信する仕組み（プロトコル）です。 個人情報やクレジットカード情報などの重要なデータを暗号化して、サーバ～PC間での通信を安全に行なうことができます。 TLSはウェブサイトから情報を送信する際に、送信する情報を暗号化する為に利用されるので、サイトの管理者は送信される情報を悪意を持った第三者から守ると同時に送信される情報が改ざんをされていないことを証明することができます。 |
| Webex Events | TLS 1.2 | |
| Microsoft Teams ライブイベント | TLS 1.2 | |

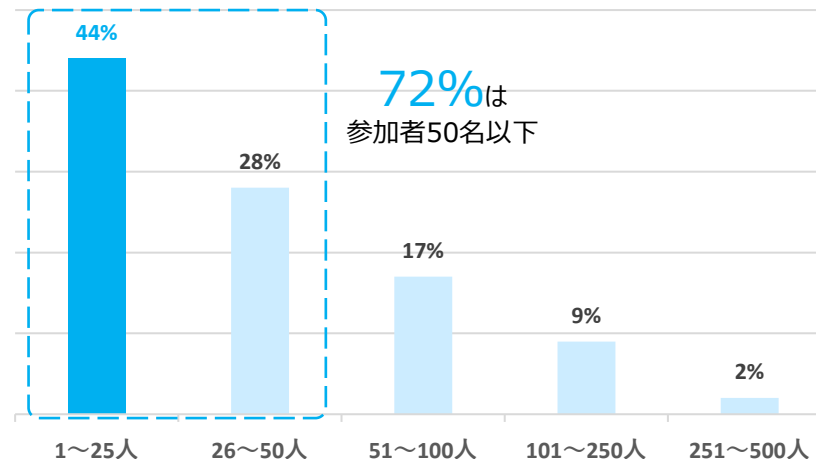
※暗号化方式（共通鍵暗号）は「AES-256」が採用されています。

ウェビナーを開催する理由



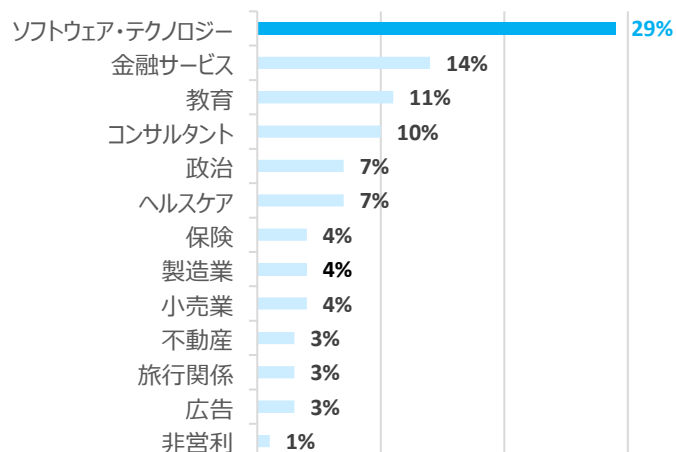
ウェビナーを開催するマーケターの85%が、顧客と潜在顧客の育成（リードナーチャリング）を目的としてウェビナーを開催しています。

ウェビナーの参加者数



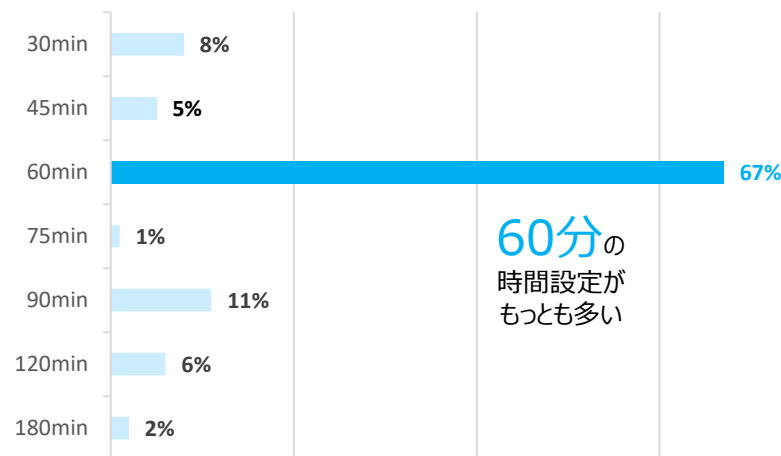
ウェビナーというと、座席の制限がないため大規模なものをイメージしがちですが、多くの企業は小規模～中規模のウェビナーを開催しているようです。

ウェビナーを開催している企業



テクノロジー業界は、マーケティング目的以外にも、顧客のトレーニングや内部コミュニケーションなどにウェビナーを活用しています。

ウェビナーの所要時間



ウェビナーは所要時間が短いほど集客しやすい、と思われがちですが、長時間のウェビナーの方が、受講者にとって価値があるとみなされる、と評価しています。



ウェビナー平均出席率

46%



ウェビナー参加者申込時間帯

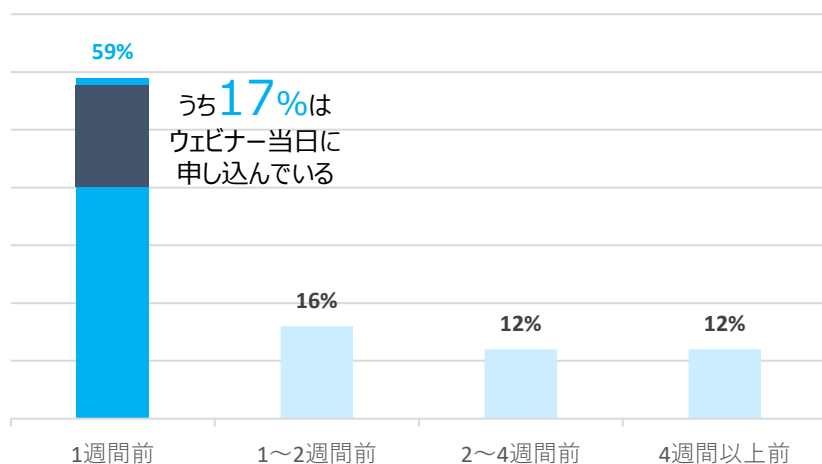
午前 8 時 ~ 午前 10 時

36%

ウェビナーは、集合型セミナーにくらべ、参加のハードルが低い分、欠席率も高まってしまうと推測できます。

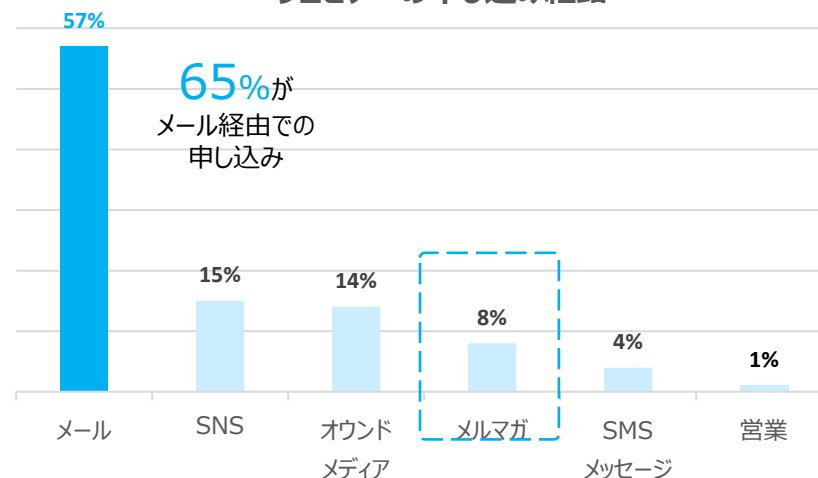
ビジネスパーソンがメールをチェックする時間帯と関わっていると仮説できます。午後 2 時以降はウェビナー申し込みが急減されます。担当者は、午前中のメール送信を試してみるのもよいかもしれません。

ウェビナー参加者の申し込み時期



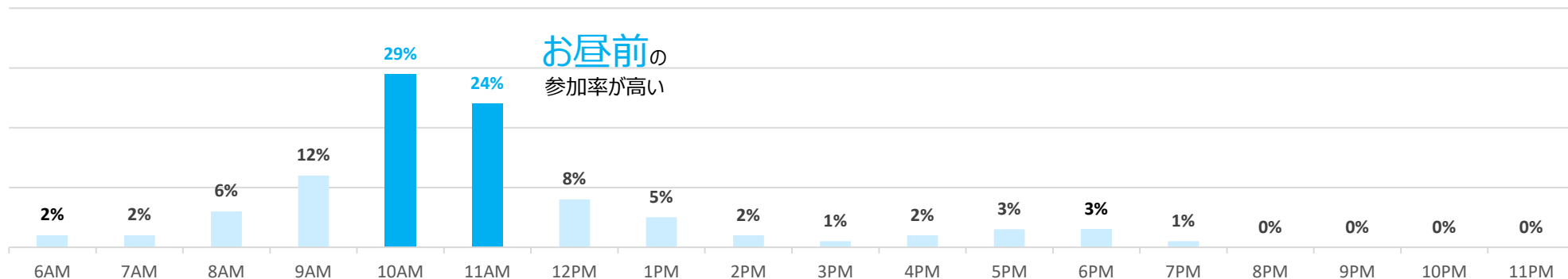
最低1か月前から集客をはじめ、ウェビナーの1週間前になったらウェビナーのプロモーションを増やすことを提案します。

ウェビナーの申し込み経路



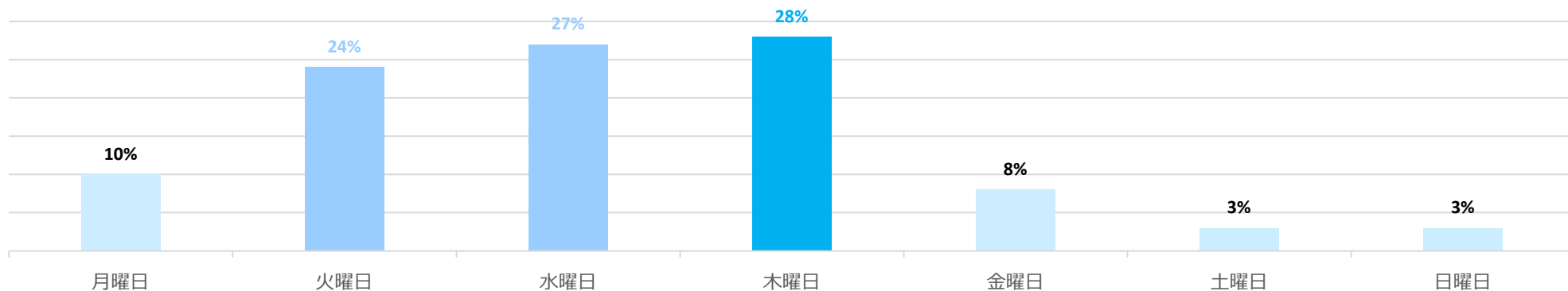
「メール」はセミナー集客だけを目的とした単発のメールを指し、「メルマガ」は定期的送信するメールを指しています。

ウェビナー参加率の高い時刻



もっとも参加者が多かったウェビナーは午前10時と午前11時開催のウェビナーです。ですが、他の調査結果から見ると「13～15時の時間帯も参加可能」という結果が出ています。ウェビナーに参加しづらい時間帯の理由としては ・8～9時台はミーティングがあるため ・夕方参加では帰宅が遅くなるため の理由があげられます。ウェビナーは「お昼前」もしくは「お昼後」に設定すると集客しやすい、と推測できます。

ウェビナー参加率の高い曜日



月曜日と金曜日はウェビナーに参加しづらいという意見があり、理由は ・月曜はミーティングがあるため ・月曜は何かと業務が入りやすいため ・金曜は他の仕事の締め切りが多いため ・金曜は月曜のミーティングの準備があるため などが主な回答でした。



プレゼンテーションの表現力を格段に飛躍させるアプリ

mmhmm

- バーチャル背景を作り出すアプリ
- プレゼンター → クロマキー処理で切り抜き
- バーチャル背景 → 任意の背景を合成
- プレゼンテーション → 任意の共有したいファイルをはめ込み



プレゼンテーションの理解度を向上させる機能

Zoom

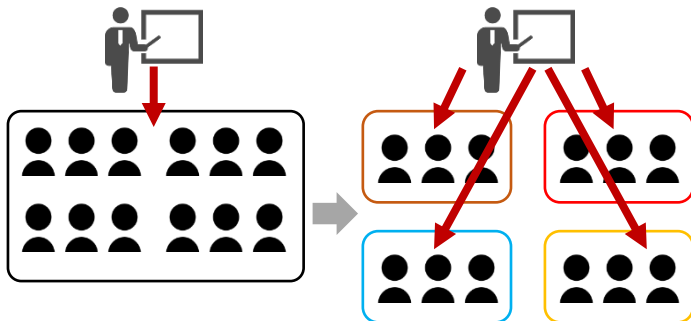
- ファイル共有したいドキュメントが背景になる機能
- プレゼンター → クロマキー処理で切り抜き
- 背景 → 指定したドキュメントを背景設定

文字起こし機能（録画された動画データが対象）

ウェビナーから個別商談セッションが変わる際に有効な機能

ブレイクアウトセッション

- 1つのセッション（VMR）から用途に応じてグループに分けワークが行える機能
- 参加者 → 1つのセッションに参加
- グループワーク → 参加者はグループ用のセッションに入りなおすことなく振り分けられたセッションに参加
- 講師 → どのセッションにも自由に入退室可能



オンラインイベントの進め方【企画】

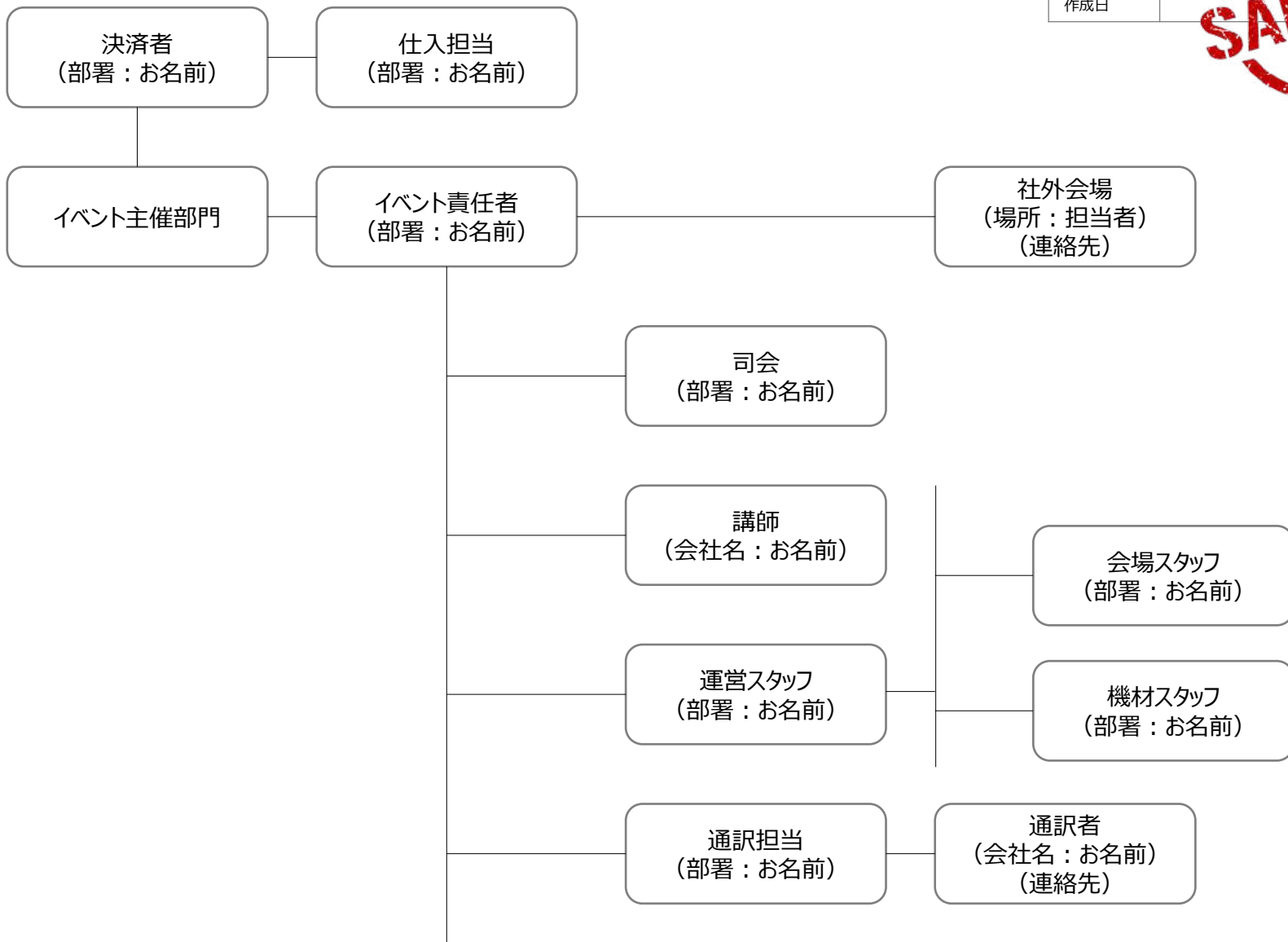


| | |
|--------------|---|
| ウェビナータイトル | 【ヤマハ】マイクスピーカー「YVC-1000」まるわかり活用術 |
| 開催日 | 1回目：7月8日（木）／2回目：8月4日（水） |
| ウェビナー内容 | YVC-1000の基本性能を改めて紹介しながら、ウィークポイント（導入してみてこんなはずじゃなかった）を解説。「なるほど、そういう事だったんだ」とご理解いただいた上で、こうすれば上手く使える、こんな使い方がある活用術を紹介。最後に本当に考えなければいけないオンライン会議の「音声」とは、を解説。他にコロナ禍で考えるべきオンライン会議運用のTipsを紹介。 |
| ウェビナーの目的 | ①リードとの接点を増やしたい ②ウェビナー話材をきっかけにリードヘアポを取りたい ③VTV取扱製品はテレビ会議だけではない事を知って欲しい |
| 集客目標 | 1回目：30人／2回目：30人 ※アタックコールは実施せず、リードとの話材でウェビナーの紹介をする |
| 集客対象 | ①全リード ②HPから参加希望のある一般企業（新規リード） ③既存顧客 ④パートナー |
| ウェビナー終了後フォロー | 参加者リスト⇒アポ獲得コールリストとして営業チームに展開する コール実施後はリード管理システムに登録する |
| ウェビナーのGOAL | ウェビナーをきっかけに、リード（導入担当部門）の担当者から相談や提案を依頼された状態 |
| ウェビナー実施方法 | プラットフォーム：ZOOMビデオウェビナー ウェビナー本編は動画を再生し、Q&Aはリアルに対応 |
| リソース | 責任者：小山／パネリスト：水田 ・ 集客用HPコンテンツ作成、集客管理：藤井 ・ メルマガ配信：藤川 |
| 予算 | ¥50,000- |

オンラインイベントの進め方【運用／役割表】

プロジェクト名： _____

| | |
|-----|--|
| 担当者 | |
| 作成者 | |
| 作成日 | |



オンラインイベントの進め方【集客・案内】



ホームページ



SNS



メールマガジン

FAN向けに告知

【受動的】

口コミ的な告知

【受動的】

ターゲット向けの告知

【能動的】

『POINT』

集客を多く狙うのであれば**タイトルに興味を引くキーワード**を入れる事。

- ヤマハYVC-1000 → 人気No.1のマイクスピーカー、利用者が多く知名度が高い
- まるわかり活用術 → 自分たちが使っている方法以外にも使い方があのでは？

公開：ホームページ → SNS → メールマガジンの順に公開するが、1日で完了する事。

メールマガジンは色々情報は載せず、オンラインイベントの事だけを配信する事。

『POINT』

製品紹介やサービス説明のオンラインイベントでは、事前に動画で撮影しておき、編集時にテロップなど入れて参加者の興味を持続させる



オンラインイベント中：講義中

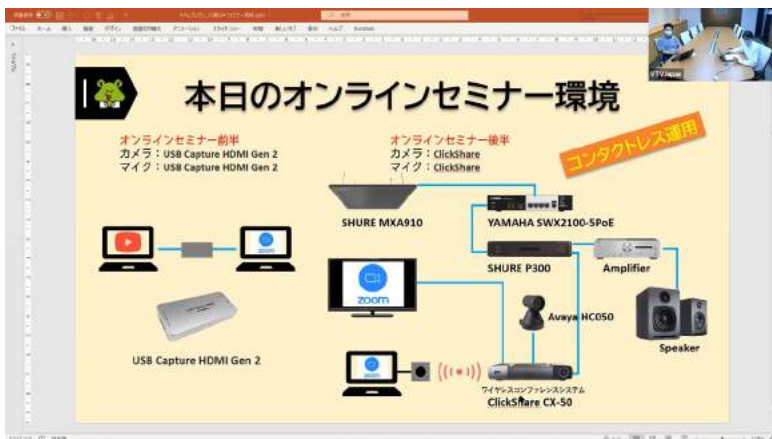


臨場感が無く、時間が長くなると参加者が飽きてしまう

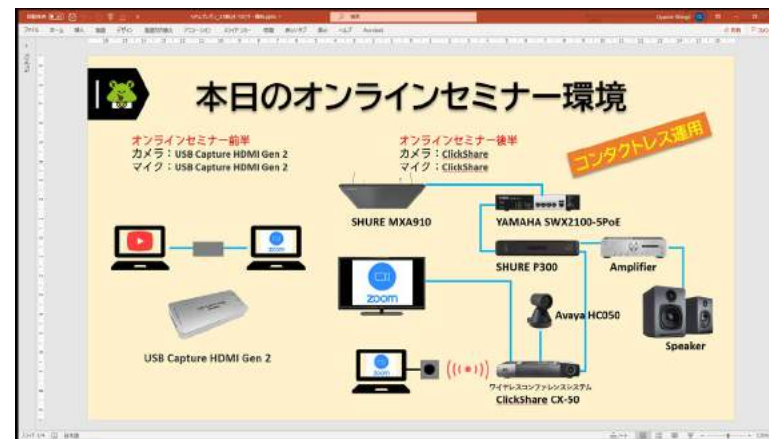


テロップを入れるなど、映像に波をつける

オンラインイベント中：資料共有



プレゼンターのカメラ映像（PIP）が邪魔で、資料が見えない場合がある



しっかり見てもらいたい資料は全画面表示できるように、動画にしておく

『POINT』

リハーサルは最低「3回」実施する事。

1回目リハーサル：利用する機材が構想通りに稼働するかをチェックするのが目的。

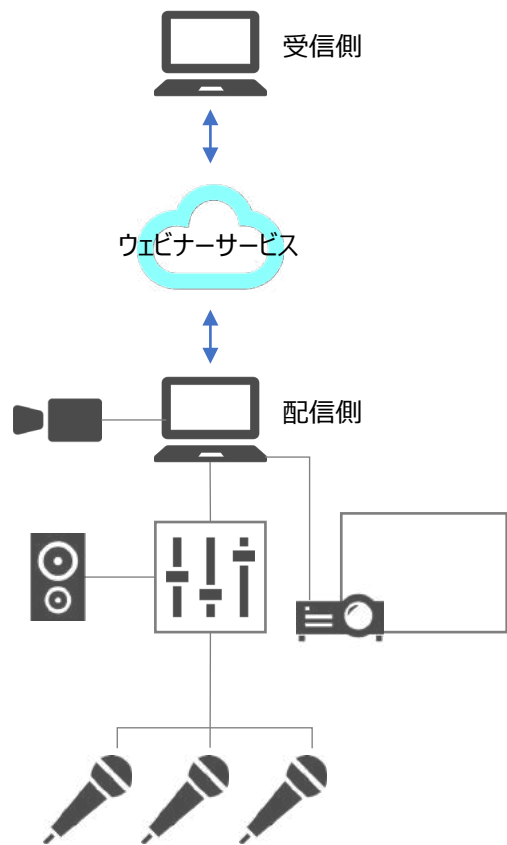
(本番1週間前までに実施)

2回目リハーサル：台本構成通りに進行できるかを確認するのが目的。

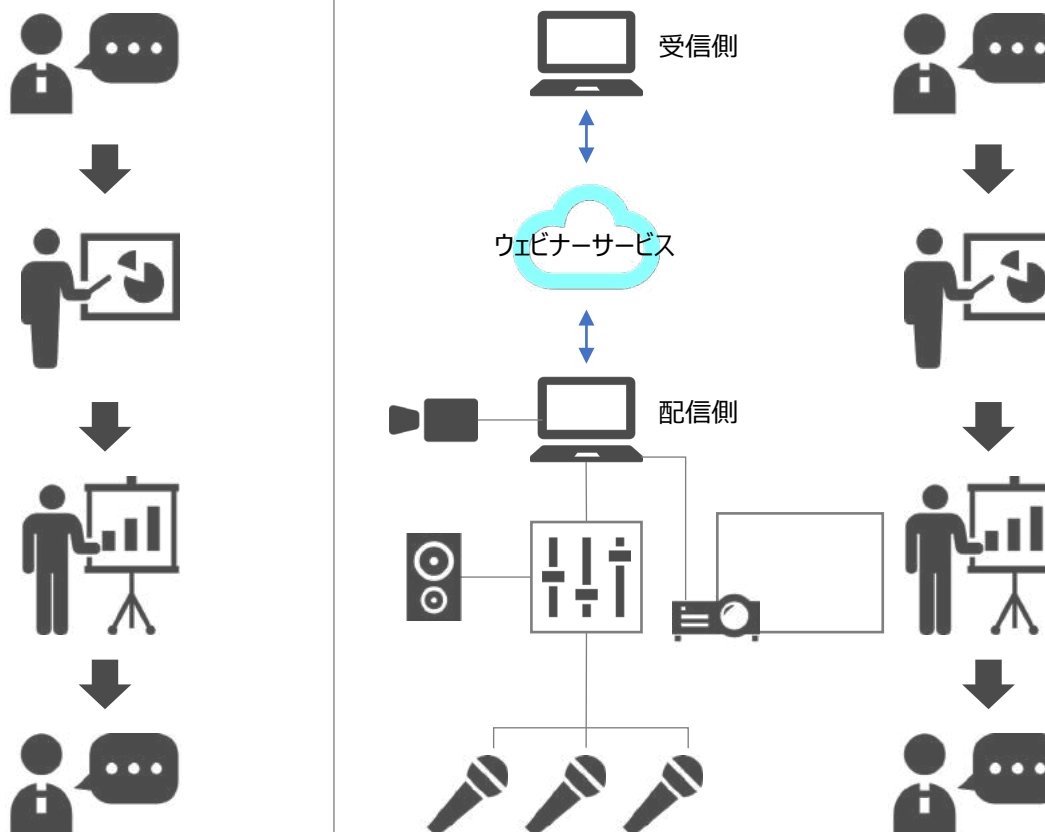
(本番1週間前までに実施)

3回目リハーサル：台本構成通りに機材が稼働し、進行できるかを確認するのが目的。 ※ランスルー (本番当日に実施)

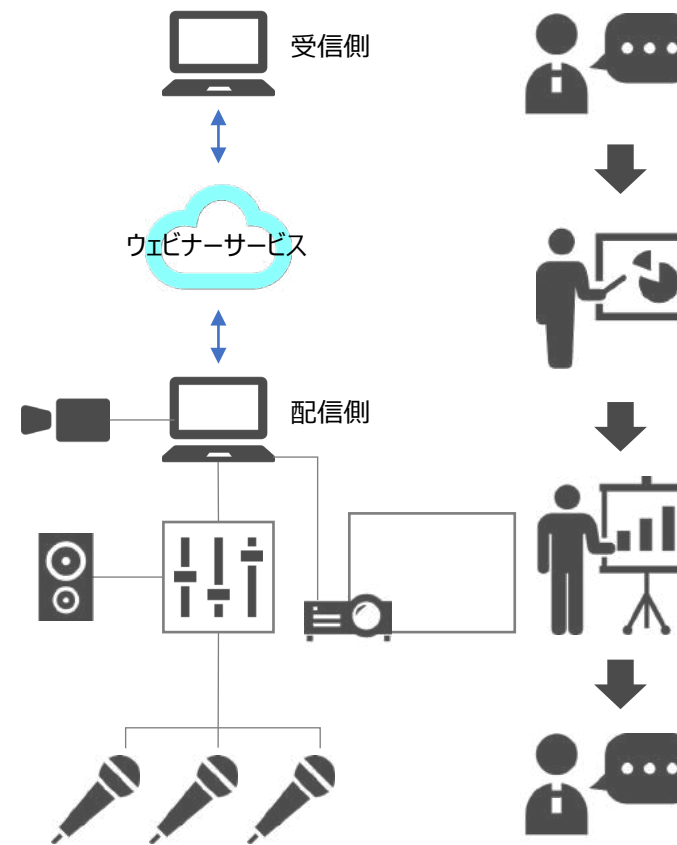
1回目：機材チェックメイン



2回目：進行チェックメイン



3回目：ランスルー



『POINT』

本番が始まるまで参加者は「待機」する事になるが、待機映像を準備しておく事で参加者の事前トラブルが軽減できます。



VTV communication architects

VTVシャパンプライベートウェビナー
会議室から参加するオンライン会議で
「本当に使えていますか？」

ご利用中の
YVC-1000

なるほど！
だからオンライン会議の
音声が悪かったのか！

YVC-1000を
ご利用中の
企業様必見の
ウェビナー

こんな使い方があったんだ！
ユニファイドコミュニケーション マイクスピーカーシステム
YAMAHA YVC-1000
まるわかり
活用術！

映像、音声に不具合がある場合は
こちらへお問い合わせください。

TEL(携帯電話)
090-000-0000 : VTV小山

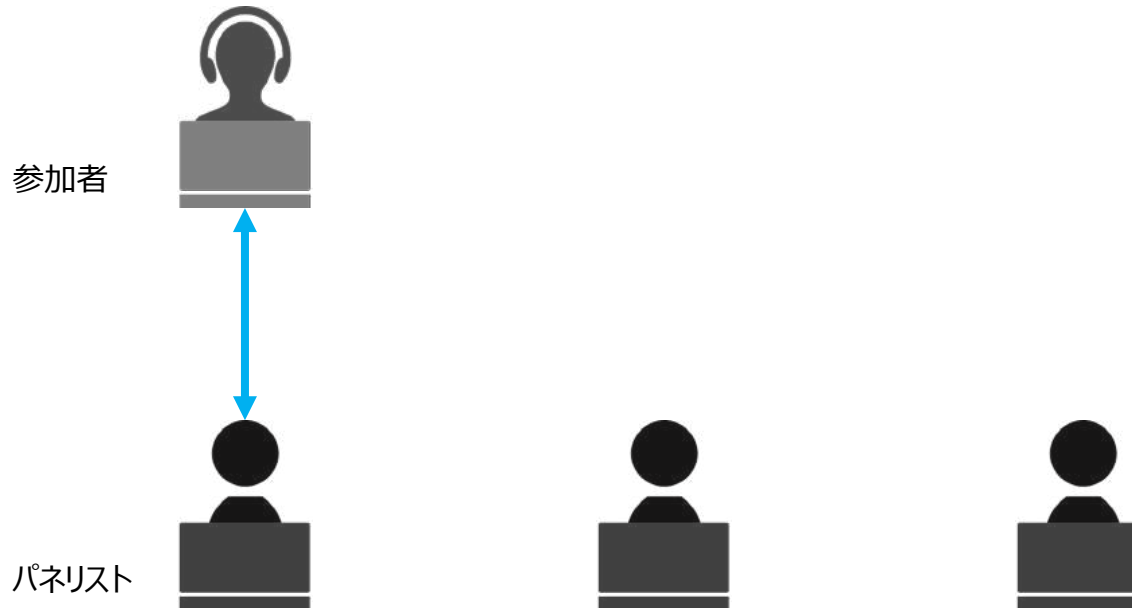
参加者がオンラインイベントのURLへアクセスすると、待機映像が表示される。
BGMも一緒に流すことで、映像 + 音声を受信できているかがチェックできる。

BGMの途中に「映像が見えない、BGMが聞こえない方は（携帯電話番号）までご連絡願います」
などアナウンスを入れ、参加者の事前トラブルを軽減させます。

本番までの待機時間の目安は「15分程度」見込んでおく事。

『POINT』

テキストチャットで「Q&A」を設定する場合、参加者の人数（規模）にもよるが、パネリスト（プレゼンターの補佐）を最低3名はアテンドしておく事。



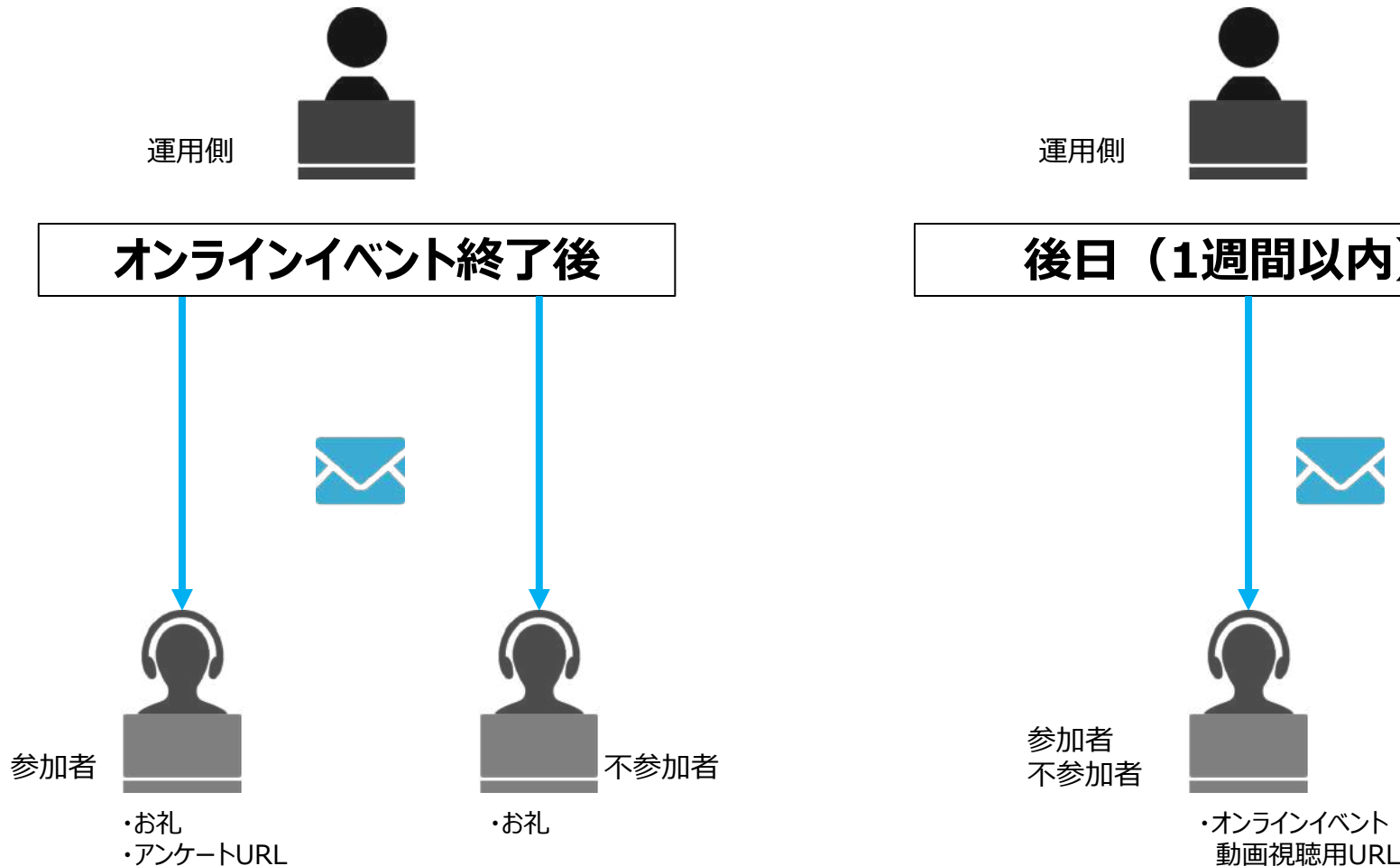
参加者からの質問に対応する場合、質問内容の難易度によっては時間がかかってしまいます。参加人数やオンラインイベントの内容を考慮し、パネリストの人数を多めに設定する、製品やサービス知識のある人をアサインする、この内容の質問は誰が対応する、など事前に決めておく事。

『POINT』

オンラインで参加頂いた方に対しては、その日のうちにお礼メールを出すようにする事。また参加希望であったが参加できなかった方に対しても、次回また案内させていただきます、などの内容でメールを出すようにする事。

参加者に対してのお礼メールには、オンラインイベントに参加頂いた熱量が冷めないうちに「アンケートのご協力」として、アンケート記入URL（LINK）もあわせて配信する事。

録画した動画は、ダイジェスト版として編集し、後日参加・不参加者へメールで共有する事。



『POINT』

オンラインイベントに参加頂いた方に対してお礼メールを配信後、インサイドセールス部門、もしくは営業部は必ずフォローコール（電話）する事。
参加者名簿をフォローコールリストとして利用し、アンケートからの質問や相談のコメントがあればリストに反映し、リスト化しておく事。
フォローコールの際は、オンラインイベントで実施された内容やコンテンツを把握したうえでフォローコールを実施する事。

『フォローコールのコツ』

| | |
|------------------|---|
| コール（電話）するタイミング | 電話に出てもらえる確率の高い時間帯は夕方（16：00～17：00） 電話に出てもらえる確率の高い曜日は火曜日・水曜日・木曜日 |
| フォローコールの目的を設定する | 【例】 参加者との接点を増やしたい 弊社の製品やサービスを深く知って欲しい |
| フォローコールのゴールを設定する | 【例】 参加者から質問や相談を受けられた状態（→アポイント獲得へ） |
| コール期間を設定する | 【例】 オンラインイベント終了日から5営業日以内に全件コール終了 |
| コールスクリプトを用意する | 経験の浅い社員でも、経験ある社員と同等な会話ができるように準備する |
| 結果を共有する | フォローコール結果は必ず集計してレビューする事 フォローコールで得られた情報は「お客様の声」として他部門とも共有する事 （マーケティング・開発・製造 etc） |

開催前

| トラブル原因 | チェック方法 |
|---------------------|--------------------------------|
| 参加希望者に対して登録URLの送り忘れ | 集客管理者は最低2名アテンドしWチェックを行う |
| 資料の文字が細かい、小さい | 伝えたいことは箇条書き+写真、イラストで資料を作る |
| 参加率が悪い | リマインダーメールを設定しておき、開催1日前には配信しておく |
| 進行がモタつく | 事前に最低2回はランスルーを実施しておく |

開催中

| トラブル原因 | チェック方法 |
|---|---|
| 質問対応がスムーズにできない | パネリストを最低3名はアテンドしておく |
| 相手側機材・通信トラブル (聞こえない・見えない・つながらない・落ちる) | Q&Aサイトや参加する前にお読みくださいpdfを作成しておき 事前にアナウンスしておく |
| こちら側機材トラブル | カメラ・マイク・ミキサー・スイッチャーなど簡易的なもので良いので バックアップ機材を準備しておく |
| 退席者が多い | コンテンツの見直しや見せ方を工夫し、参加者を飽きさせない |
| アンケート回収率が悪い | ベルティールなど準備しておく |

人気ウェビナープラットフォーム 機能比較

| | Zoom Webinar | Webex Events | Microsoft Teams ライブイベント |
|----------------|--|---|---|
| 最大参加人数 | 最大10,000人 | 最大3,000人 | 最大10,000人 |
| 参加希望者手動承認 | ○ | ○ | × |
| 参加パスワード設定 | ○ | ○ | × |
| 登録案内メール | ○ (案内メール本文作成のみ) | ○ | × |
| 登録承認メール | ○ (自動・手動) | ○ (自動・手動) | × |
| 参加・不参加情報 | ○ (.csvでダウンロード可) | ○ (.csvでダウンロード可) | ○ (.csvでダウンロード可) |
| リマインダーメール | ○ | ○ | × |
| 参加お礼メール | ○ | ○ | × |
| 不参加フォローメール | ○ | ○ | × |
| 開催時カメラ・マイクミュート | ○ (デフォルト 設定変更可) | ○ (デフォルト 設定変更可) | ○ (デフォルト 設定変更可) |
| Q&A時の音声質問 | ○ (ホストが発言を許可した時のみ) | ○ (ホストが発言を許可した時のみ) | ○ (ホストが発言を許可した時のみ) |
| 資料ダウンロード | × | ○ | × |
| 資料共有 | ○ | ○ | ○ |
| テキストチャット (Q&A) | ○ (.csvでダウンロード可) | ○ (.csvでダウンロード可) | ○ (.csvでダウンロード可) |
| 開催中 投票機能 | ○ (.csvでダウンロード可) | ○ (.csvでダウンロード可) | × |
| 開催後 アンケート機能 | ○ (.csvでダウンロード可) | ○ (.csvでダウンロード可) | × |
| ウェビナー録画 | ○ (ローカル上 : PC容量 / クラウド上 : 1GB) | ○ (クラウド上 : 1GB) | ○ (容量は契約プランにより変わる) |
| 録画データ ダウンロード | ○ (.mp4) ※録画リンクURLから視聴とダウンロード可 | ○ (.mp4) ※録画リンクURLから視聴とダウンロード可 | ○ (.mp4) ※録画リンクURL→視聴のみ ※Onedriveから録画リンクURL→視聴 + ダウンロード可 |
| VTVジャパン所感 | <p>コロナ禍の中、Zoom爆弾などセキュリティ面で利用を懸念する企業が多く出たが、現在では改善された。利便性、操作性、機能面に優れており、利用企業は多い。経験上、他社ウェビナーに参加する中、約8割の企業がZoom Webinarを利用されるケースにある。</p> | <p>Web会議の老舗的なポジションにあり、知名度も高く利用者も多いWebex。だがウェビナーに関しては運用、参加共に操作が複雑な印象。ネットワークに弱く、特にプロキシ経由での参加では従来のパフォーマンスが発揮できていない感が伺える。</p> | <p>テキストチャットをメインに利用するケースが一般的だったが、コロナ禍でビデオチャット文化が急速に進んだプラットフォームという印象。Teamsの別サービスを利用することでアンケート機能などが利用できるが、デフォルトとしてのウェビナー機能は皆無に等しい。</p> |

オンラインイベントで活用できるデバイス集



| | |
|---------|------------|
| パーソナル利用 | |
| 利用シーン | リモートワーク・自席 |
| エンジン | BYODパソコン |

自宅やサテライトオフィス、会社の自席からオンラインイベントに参加する際に最適なUSB拡張デバイスをご紹介します。



BLACKWIRE 8225

logicool



C922N PRO



スマートフォンの充電にも使える

SYNC 20

Yamaha



YVC-200

AVAYA



Conference Phone B109

PRINCETON



15.6型
フルHDタッチ機能付きモバイルディスプレイ
PTF-M156T



beyerdynamic

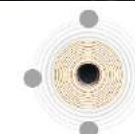
Web会議用ワイヤレススピーカーホン
Phonum



<GECKO FOLLOWモード>
話者にマイクの集音が追従する
ボイストラッキングモード。



<GECKO FIXモード>
指向性を一方向に限定する
単一指向性モード。



<GECKO 360°モード>
全方向の音を常に集音する
全指向性モード。

ClearOne.

映像自動調整機能内蔵 1080PWebカメラ
Unite 20



オンラインイベントで活用できるデバイス集



社内会議室利用

利用シーン ハドルスペース（小～中会議室）

エンジン BYODパソコン

会社のハドルスペース（小～中会議室）からオンラインイベントに参加する際に最適なUSB拡張デバイスをご紹介します。

Jabra®

世界初の高性能 180° パノラマ 4K 対応 プラグアンドプレイビデオソリューション



PanaCast



Speak 750



Yamaha



YVC-330

AVAYA



HC020

poly



PPUSB-STUDIO

logicool



MeetUp

Yamaha



CS-700AV



SHURE

ソーシャルディスタンス対応 天井・壁掛け設置型シーリングマイク



MXA910



MXA710

社内会議室利用

利用シーン 大会議室・役員会議室

エンジン BYODパソコン・テレビ会議専用機

オンラインイベントで利用する会議室の音響設備、映像装置、機材を再構築、かつソーシャルディスタンス、衛生面にも配慮した会議室環境拡張ソリューションをご紹介します。



YAMAHA

YVC-1000



HC050

AVAYA

オンライン会議専用USB Hub



One Cable Connect Hub (OCC Hub)



衛生面に配慮しデバイスにはなるべく触れず、オンライン会議が拡張できる

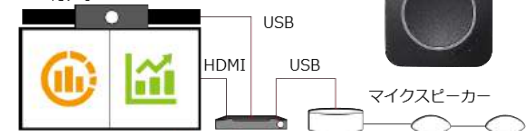


BARCO ワイヤレス資料共有

ClickShare CX-50



PTZカメラ



ClickShare



オンライン会議PC



同席参加者PC





<https://www.vtv.co.jp/>
Mail:vtvinfo@vtv.co.jp

東京オフィス
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-11-11 第2フナトビル6階
Tel:03-5210-5021 Fax:03-5210-5022

大阪オフィス
〒541-0048 大阪市中央区瓦町4-5-9 井門瓦町ビル5階
Tel:06-4706-3930 Fax:06-4706-3931